

アーカイブ Data Report

NO. 151

(2022年1月5日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F

E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会

(* 岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校)

教育リソースデジタルアーカイブを有効に活用する 教育実践システムの構成の必要性

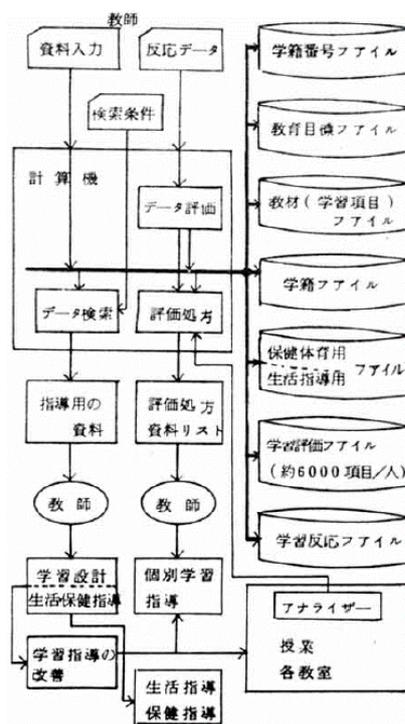
～学習反応データ、デジタル教科書や図書・学習プリント等の紙メディアの連携～

後藤 忠彦 (岐阜女子大学)

1.

教育リソースのデジタル化が進みだし、すでに半世紀以上になり、どうにか教育実践での活用が見えてきた。そのプロセスの概要は次のようであった。

- ①アメリカのERIC (Education Resources Information Center) で収集・保管・流通 (1960年頃)
- ②日本での学制百年記念事業として教育資料館設置構想 (1970年頃)、その後国立教育研究所 (木田宏所長) で教育情報センター設置 (1985年)
- ③アメリカの連邦教育局等のプロトコール運動として、教育上意味のある事象の源記録を収集・保管し教師教育に活用 (プロトコールの必要性はスミス (1963年) が指摘、その後研究されてきた)。
- ④ブルーム等による試験評価問題等の保管、整理、利用で必要とする教育目標の分類体系 (タキノミー) の開発 (1956年) Item Library 等の開発、形成的評価等の研究へ。2001年に改訂タキノミー。
- ⑤CMI (Computer Managed Instruction) システムの開発
教育実践資料の総合的な収集・保管と学習反応、音声、映像の行動カテゴリーデータ等の保管システムとして CMI が開発 (岐阜では1970年) されだし、Item Library、学習反応データプール、解析システムを構成し教育研究に役立てた。また、1978年には小学校用の CMI システムが開発されている。



瀬ノ上裕、後藤忠彦他、CMI システム導入1年後の評価、電子通信学会、ET80-3、1980.6.21

2. 社会の変化に対応した教育リソースDAの活用

映像、音声、文字、図形等で構成される教育実践活動での各種資料が教育リソースとして構成されだし、社会のデジタル化、グローバル化、人口減 (人材減) の変化に対応した新しい教育システムや GIGA スクール構想等が進みだし、教育リソースの必要性が言われた。

この教育リソースを有効に活用するためには、これまでの教育のデジタル化の実践を参考に、次のよう

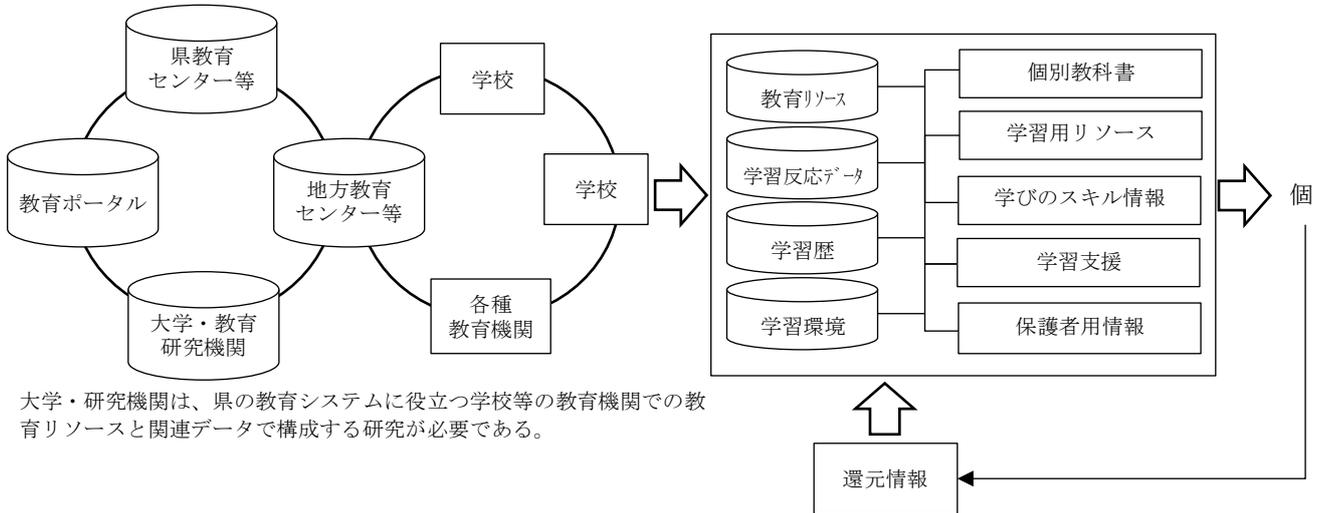
な観点で教育処理システムの構築が望まれる。

①教育で活用するメディアの各特性を考えた教育システムの構成

[はなし(教師・学習者)]、[紙]、[デジタルメディア(通信含む)]のバランスを考えたシステム

②教育リソース DA の国・地方・教育機関の連携による管理・流通・利活用のシステム構成

③[教育目標]、[教育リソース]、[学習状況]、[学びのスキル]、[社会の変化]に対応した教育機関（学校等）での活用システムの開発



大学・研究機関は、県の教育システムに役立つ学校等の教育機関での教育リソースと関連データで構成する研究が必要である。

3. 教育リソース DA の活用の課題

教育リソース DA の活用は、現状の学校教育と今後の教育システムの動向を考えて開発すべきである。

第 1 ステップとしては、現状の社会のデジタル化、グローバル化、人口減にともなる GIGA スクール構想等を配慮し、当面の教育リソース活用のシステムを構成・研究が必要である。

第 2 ステップとしては、[はなし]、[紙]、[デジタルメディア]で構成する新しい教育システムに対応した教育リソースの活用研究が必要である。

ただ、現状のデジタル教科書等のデジタルメディアの活用は、平安時代の往来物程度であり、江戸時代の紙の「おうらい」まで至っていない。まだ、紙の教科書をデジタル化、多少のデジタル処理機能を用いたにすぎない。

4. 木田宏教育資料、オーラルヒストリーから教育リソースの活用を考える

木田宏先生は、戦後、教育改革で国定教科書から検定教科書への切り換えを司令部の指示で実施された。この時、司令部から Courses of Studies（学習指導要領と訳された）を切り換え前に作り、それを参考に教科書を作るように指示された。この「Courses of Studies」の複数形が木田先生には大きな課題であったと言われていた。

学力テストの課題でも、日本の教育の特色として下位、上位が少なく、平均に集中している点を海外からも批判を受け、Courses of Studies になっていない点も含め、今後の教育の在り方について、各種の指摘をされていた。